斉藤復興推進課長。　〔復興推進課長　斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

基本的には、今ほどの議員おっしゃった糸魚川の町並みの歴史、そういったものを基本にやはりまちづくりは進めていきたいというふうに考えております。

ただ、いろんな形で現代の生活様式とかそういったものにかなわない部分もありまして、全体を通して本当に以前のような町並み自体を再興できるかというあたりになると非常に、難しい問題も絡んでいるんではないかなというふうに思います。我々としてもできるだけ町並みにそぐったものづくりということはしていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○９番（田原　実君）

にぎわい広場の計画には、そういったことが感じられません。質問を続けるには時間がなくなりました。この続きは、次回の特別委員会等で伺ってまいります。今回は十分な答弁をいただいていないところは、再度質問しますので、よろしくお願いします。

以上で、質問を終わります。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で、田原議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。

再開を１１時３５分といたします。

〈午前１１時２５分　休憩〉

〈午前１１時３５分　開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、東野恭行議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。〔２番　東野恭行君登壇〕

○２番（東野恭行君）

おはようございます。清政クラブの東野恭行でございます。

発言通告書にのっとり、１回目の質問をさせていただきます。

１、糸魚川市駅北復興まちづくり計画の進捗と課題について。

２０１８年７月３１日、８月１日の糸魚川市駅北大火復興対策特別委員会の市外調査において、岩手県紫波郡紫波町の「オガール紫波」、長野県上田市のコワーキングスペース「ＨａｎａＬａｂ．」を視察してまいりました。今回の視察は行政視察とは異なり、官民連携の実例として大変参

考になる視察であったと考えますが、両所共通して民間の核となる人材が存在するからこそ地域が成長し、発展し続けると考えますし、行政における環境整備や支援があるからこそ持続しているのだと感じました。

糸魚川市においても民間の活力が期待されるところでありますが、民間企業はその場所でお客様を獲得できるのか、採算性があるのかが出資の判断基準であります。それをクリアするために今後、行政側の役割として期待するのは、官だからこそできる人がおのずと集まるしかけと、活躍するであろう民間への「包括的な支援と協力し続ける約束」であると考えます。

(1) 糸魚川市における行政視察の受け入れについてお伺いします。

(2) ２０１８年８月３０日に、まちやどシンポジウムが開催されましたが、参加者の反響と理解についてお伺いします。

(3) 「オガール紫波」「ＨａｎａＬａｂ．」の先進地事例を受けて、にぎわい創出広場・防災とにぎわいの拠点の今後の展開と、考え方についてお伺いします。

(4) ３０年持続可能なまちづくりを目指す、糸魚川市駅北復興まちづくりに対して糸魚川市民が持っている「関心度・期待値」についてお伺いします。

(5) 糸魚川市駅北復興まちづくりにおいて、糸魚川市民の役割と行政の役割のあり方についてお伺いします。

２、３０年持続可能なまちづくりと大学誘致の可能性について。

糸魚川に大学ができたら。交流人口がふえ、活気のあるまちができる。学生が交流することでアルバイトの人材も確保でき、一層糸魚川がにぎやかになる。さらに親御さんも糸魚川に訪れ、お金が落ちる。糸魚川市民の誰もが夢見たことだと思います。しかし、少子化の波は、糸魚川市に限らず全国的な問題として取り上げられています。大学の「２０１８年問題」。少子化の影響で１８歳の人口（３年前の中学校卒業者及び中等教育学校前期課程修了者の数）の減少が、本年度以降加速すると予想されています。

しかし何らかの手だてで、人口が首都圏に集中することを食いとめ、将来糸魚川市全体が活気のあるまちを目指し、雇用やワークライフバランスを保つ手だてをしなければ、人口減少を食いとめることはできないと考えます。糸魚川に存在する文化や魅力のあるものを最大限生かし、伝播すること、同時に交流人口拡大を図らなければ持続可能なまちづくりは難しいと考えます。

本年度４月に糸魚川市産業部農林水産課に任用された、産学官推進企画幹のｍｉｓｓｉｏｎについてお伺いします。

(1) 産学官連携による地域経済の活性化について、糸魚川市の短期、中期、長期ビジョンをお伺いします。

(2) 高等教育機関の誘致について、具体的な施策があるのか。計画を実行する時期は。

(3) 魅力ある高校づくりとは、糸魚川市にある高校全てを指すのか。

(4) 夢や希望を育む小中高のキャリア教育の充実について、その意図は。

これで１回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

東野議員のご質問にお答えいたします。

１番目の１点目につきましては、議会や行政、消防団や自治会など幅広く視察にお越しいただいております。視察内容は、大火を踏まえた防火・防災の取り組み、復興事業の内容、自治会の取り組みといった項目でございます。

２点目につきましては、市内外から約１００名の方々がご参加いただき、新たなまちづくりの可能性を学ぶよい機会となりました。

３点目につきましては、官民連携を視野に入れながらにぎわい創出広場の運営や防災とにぎわいの拠点について、検討してまいります。

４点目につきましては、大火後の駅北地区の復興に寄せられる関心や期待は、非常に大きいと思っており、人の行き交うまちとなるよう取り組んでまいります。

５点目につきましては、持続的なまちづくりやにぎわいをつくり出すためには、市民の皆様方の理解と協力と立ち上がりが何より必要であり、行政は市民の力が発揮される環境を整え、サポートしていくことが役割だと思っております。

２番目の１点目につきましては、市内３校を核として地域の産業界等との産学連携事業を主体として、連携強化の方向性を調査研究いたしているところであります。

２点目につきましては、当市の自然環境や施設整備の活用などを高等教育機関に提案いたしているところであります。今後は、当市をフィールドとして学習機会の創出など高等教育機関の可能性や連携強化と交流を図りながら誘致に取り組んでまいります。

３点目につきましては、市内の中学生は、糸魚川高校でしか自分を発揮できない生徒、白嶺高校でしか発揮できない生徒、海洋高校でしか自分を発揮できない生徒がいると思いますので、さらに３校への魅力を高めるように将来に向かってこの連携をとっていきたいと思っております。

４点目につきましては、キャリア教育は郷土愛の醸成も含め、子供たちが社会で自立し、自分の役割を果たしながら夢をかなえていくために欠くことのできない力を育むものであり、重要であると位置づけております。

以上、ご質問にお答えいたしましたが、再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○２番（東野恭行君）

市長、ご答弁ありがとうございました。

それでは２回目の質問、駅北のほうから再質問させていただきたいと思います。

１番の行政の受け入れについてでございますが、糸魚川市においても一昨年の大火より他方面から過分なるお見舞いや視察などの対応に追われていると思いますが、他地域の先進地事例、先進地行政視察に伺うと、それぞれ所管する担当課が視察の対応をしてくださいます。当面、糸魚川市も再建・復興に関する視察の対応に追われると思いますが、現在、提供している視察内容のポイントをお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。　〔復興推進課長　斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えいたします。

現在、視察については、主に復興推進課、消防本部、議会事務局、福祉事務所等が受け入れを行っているものがほとんどでございます。視察規模で多い事柄としましては、犠牲者が出なかったということについて自治会がどのようにかかわっていただいたのかというようなこと、そういったことがありまして、内容によっては被災４区の区長様のほうにお願いしまして、じきじきにお話をしていただく場合もございます。

また、大火からの復興まちづくりにおける事業や取り組みについての視察も多く、計画の概要だけではなく、現在の進捗状況やそれらの課題について、説明をしておるものであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○２番（東野恭行君）

ありがとうございました。自治区とのかかわりとのことも視察に来れられてるということで、参考になりました。

もう一つ再質問でございますが、防火水槽の設置、ポケットパークの整備、道路の美装化、無電柱化、雁木の再建など、地域の安心・安全、暮らしやすさを最優先に考えた上で整備されていくと思いますが、にぎわいづくりのイメージマップを見るに、今後は観光客が来訪される前提で、糸魚川市の観光のメニューに組み込むような計画はお持ちでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。　〔復興推進課長　斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

今回の大火の被災と、その復興についての部分のメニュー化というようなお話ではないかなというふうに感じておりますが、それらの状況を観光メニューにという計画を現在まだ持ち合わせておりません。

ただ、今回の大火については、気象条件等においてはどこのまちでも、特に木造密集地域ですか、そういったところでもどこでも起き得る災害であろうというふうに考えておりますので、こういった糸魚川で体験・経験したことを伝えていく状況を伝え、どういうふうに復興していったかを伝えていくという役割をやはりそういったメニューの中で担っていくということも大事ではないかなと思いますので、そういったことを今後検討し、これらが今まで全国からいろんな皆さんからいただいたご支援とかへの感謝と恩返しというものになるのではないかというふうにも考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○２番（東野恭行君）

ご答弁ありがとうございました。行政視察の内容と観光における提案の内容では、性質は異なると思いますが、行政視察のポイントも糸魚川の観光のメニューの対象となってくると考えてます。そこには地域の方々が、先ほども４区の区長ということでお話ありましたが、地域の方々がどういうふうにかかわっている人というところも観光の資源に今後なり得るんでないかなというふうに考えております。こちらもしっかり生かしていただいて、今後、最寄りとなるであろう担当課と連携をとりながら、もし観光の資源として考慮いただくんであれば、検討いただきたい、そのように考えております。

続いて、２０１８年８月３０日に行われました町屋のシンポジウムについてでございますが、町全体を１つの宿と見立て、町ぐるみで宿泊客をもてなすことで地域価値を向上するという考え方が、この地域に浸透するにはどれぐらいの時間がかかると検討されておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。　〔復興推進課長　斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

町宿、この仕組みにつきましては、行政に頼ることなく町の皆さんで進めていく仕組みというふうに考えております。ほかの全国における、まだ数少ないですけど事例からいたしますと、取り組みを始めてから５年ぐらいはかからないと、なかなか成果が見えてこないというふうにも事例として伺っております。息の長い事業として、少しずつでもこういった考え方・仕組みが町の中に浸透し、そういったことから町が活性化していけばというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○２番（東野恭行君）

ありがとうございます。５年はかかる見込みということでございますが、実際何をやってもそれぐらいの時間は経過すると思いますし、まず、取り組んで前に進むという考え方が大事かと思っておりますんで、こちらも期待申し上げたいと思います。

３０年継続可能なまちづくりにおいては、時代に応じた柔軟な対応と状況に応じた変化をし続けなければいけないと考えます。まずは３回に及ぶシンポジウムで、地域企業や住民に十分な理解をいただくことがかなわないのならば、さまざまな手だてをして認知を深めていただきたい、そのように要望申し上げます。

３番目の先進地事例を受けて、にぎわいの創出広場、防災とにぎわいの拠点の今後の展開について、再度ご質問させていただきたいと思います。にぎわい創出広場内に建設される施設の運用について再度伺いたいと思います。

広場に建設される施設に関しては、建設費用がかかり、管理・運営が見込まれる以上、事業目的に対し、社会的な費用対効果の計測が必要と考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。　〔復興推進課長　斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

施設整備に当たりましては、そのような部分も考えながら運営も含めて進めていかなければならないというふうに考えております。運営については、やはり現在では民間のほうへお願いしながら、にぎわいをつくっていきたいというふうに考えておりますが、目標設定については、数の部分もあろうかと思います。イベントの数やそこでの集客数、そういったものもあろうかと思いますが、なかなか定量的に、量的に計測が難しい部分というのもあるんじゃないかなというふうには思っております。この辺、どの辺をしっかり主要にしていけばいいかというあたりは、運営の方といいますか、そういった候補となるような方々からちょっとヒアリングしたり、そういった民間の方の考えをお伺いしながら決めていきたいなというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○２番（東野恭行君）

そういったヒアリングが、今後、実を結んでいくんじゃないかなと感じておりますんで、よろしくお願いします。

続いて、要望と意見になりますが、この施設を利活用することで、今後、施設自体の収入を見込んでいるのかわかりませんが、少なくともどれぐらいの人口が流動するのか、どのような効果をもたらすのか、見込みと先ほど申し上げました目標設定が必要であると考えます。当面、待ちの姿勢では、施設を利用したい、キッチンを活用して創業につなげたいという人材はあらわれないと考えます。運営側がさまざまな提案を促さないと利用につながらないと考えます。そして、利用につながらない場合のほかの対応も考えていかなければなりません。さらにオープンスペースを民間に有効に活用していただくことで、稼ぎにつなげてもらうには、日々人が流動・対流していることが理想です。イベント開催地だけにぎわっているのなら、今までと変わりありません。繰り返し平日に利用していただくための工夫が必要と考えます。施設を利用するに当たり、どんなことができて、公民館としっかりと差別化が図られ、市民にとって自由度の高い施設でなければ認知は高まらない、このように考えております。

本年６月２０日の復興対策特別委員会の行政答弁で、施設の運営当初は、管理の支援をされる可能性があるとのことでお答えいただきましたが、民間に運営を任せる前提ならば、復興まちづくり計画では、人材育成にも重きを置いてることを踏まえると、必要な措置であると考えます。

しかし、収益を上げる施設ではないというのならば、任せられる管理者は、損益計算書では記せない影響をつくり出さなければならないと考えますし、幾ら自由であっても財源を投入する以上、責任を明確にする必要があります。

お尋ねします。

糸魚川市の復興まちづくり計画で一番大事なコンテンツは何でしょうか。防災とにぎわいの拠点の中身については、今後、内容について変わっていく可能性もあろうかと思いますが、引き続き民間事業者と経済合理性の高いプロジェクトを模索するのか。いま一度予定している防災とにぎわいの拠点とにぎわい広場に建設される施設との違いを一旦整理して、駅北まちづくりにおけるそれぞ

れの役割を明確にしていかなければならないと考えます。紫波町のオガールプロジェクトで一番大事なコンテンツは、図書館であると言われておりました。まさに官が担える役割だと考えます。

しかし、糸魚川市は紫波町と条件が違いますし、糸魚川市には独自のまちの再建、復興のために尽力される方はたくさんいらっしゃいますが、被災地において強力な核となる人材の不足が懸念されております。糸魚川市の喫緊の課題は、そこでの人材育成であると考えてます。今まで以上のにぎわいをつくるには、多くの核となる人材の育成が先決ではないでしょうか。そこがぽっかり抜けたまま先々の復興の成果が芽吹くことはないと考えます。

そこで、再質問でございます。

糸魚川市駅北大火のまちづくりにおける人材の育成は、行政の役割であるかとお考えか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。　〔復興推進課長　斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えいたします。

今ほどの議員のご発言の中にもありましたように重要なコンテンツというのは何かというあたりになると、今はやはり人材ではないかというふうな考えもあろうかと思います。持続的なにぎわいのあるまちをつくっていくためには、やはり核となる人材が重要だというふうに考えております。そういった中での行政の役割は、まちづくりにかかわっていく機会やそれらの実践につながっていく場とか、そういったものの提供ではないかというふうに考えておりまして、それからそういった方々の活動のサポートをしていく、これがまさしくまちづくりにおける行政の役割ではないかなというふうに考えております。行政がまちづくりの人材を育成するというよりは、できるだけたくさんの方にそういったまちづくりを考え、かかわっていただける場を提供し、そこから始まる実践を後押ししていくということで、行政が学びと実践による人材育成のしかけをしていくということが大事ではないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○２番（東野恭行君）

ありがとうございました。

続いて、要望と意見でございます。

今後、にぎわい広場に建設される施設の運営・管理をする人材を決めていくと考えますが、どのような運営体制でいくのか。施設建設後、行政が施設運営の主体を担っていくのか、それとも行政ではなく、行く行く民間が担うのであれば、この先、施設に対し行政はどのようなかかわりを持っていくのか、明確にしていただきたい、そのように思います。多くの人が流動し、人材の育成にも密接にかかわっていく施設の運営であるならば、当面の施設管理の支援に対し地域の方々のご理解もいただけると考えております。そして、防災とにぎわいの拠点に関しては、官民連携を十分意識していただき、継続して何らかの形をつくっていただきたい、そのように思います。

４番目の質問は飛びまして、５番目の質問に入りたいと思います。

糸魚川市駅北復興まちづくりにおいて、市民の役割と行政の役割のあり方について、いま一度質問・要望をさせていただきたいと思います。

過去の一般質問においても同じことを確認させていただいておりますが、いよいよ駅北周辺の地域において、若者による組織もできているようでございます。主体性を持った若者が、今後、駅北のまちづくりを何らかの形で担っていくことと思いますが、市はさまざまな面でサポートしていただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。　〔復興推進課長　斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

昨年度、実施しておりましたまちづくりカフェとか、そういったものをきっかけに駅北での若者が、自分たちの地域のことを考え、自分たちの地域を元気にしていこうではないかと、そういう思いを強くし、そういった方々が集まり、組織をつくり、既に活動を始めていらっしゃるというふうに理解しております。市としましても、こういった方々の、やはり立ち上げから十分に加速していくまで、いかに十分な支援をするかということが大事かなと思っておりますので、金銭的な部分もそうですが、人的な部分、そういったものについても十分なサポートをしていきたいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○２番（東野恭行君）

ぜひそのあたりの包括的な支援をお約束いただきたい、そういうように思っております。

○議長（五十嵐健一郎君）

暫時休憩します。

昼食時限のため、１３時まで休憩といたします。

〈午後０時００分　休憩〉

〈午後１時００分　開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○２番（東野恭行君）

お願いします。

駅北のほうをもう少し質問させていただきたいと思います。

行政の視察の受け入れについてでございますが、先ほど私、人という観光資源もしっかりと生かしていただき、今後にぜひつなげていただきたい旨のお話をさせていただきましたが、その考え方についてご意見・お考えを聞かせていただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。　〔復興推進課長　斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

震災のこの経験と復興というのをそういったものを観光の１つのコンテンツといいますか、資源としてということでというお話だというふうに理解しますが、まさしく我々が経験した、これは酒田の大火以降の中で、非常に貴重な事実だったわけですけど、これらをやはり貴重な財産として、この次の世代につなげていく１つの財産として、やはり市内だけではなくて、市外の方からも理解していただく、見ていただくと。こういったことが起きないような次の防災に向けてのまた考えにつながっていくというようなことで、非常に大事な事象ではないかなと思いますので、そういった視点での今後の視察の受け入れやそういったツアーの受け入れとか、そういったものについても今後は考えていきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○２番（東野恭行君）

ご答弁ありがとうございました。

続きまして、にぎわい創出広場内に建設される施設について、もう一度質問させていただきたいと思います。

管理者についてでございますが、幾ら自由であっても財源を投入する以上、責任を明確にしていただきたい、する必要があるという、さっき考えを述べさせていただきましたが、この考え方についてお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。　〔復興推進課長　斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えします。

公共で設置した施設ということでありますので、公共で負担していかなければならない部分と、それから運営していく部分での、生み出していかなければいけない費用といったものがあろうかと思います。その辺はやはり大きくしっかりちゃんと責任分解を明確にしながらそういったことで運営につなげていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○２番（東野恭行君）

ありがとうございました。責任は明確にしていくということでご答弁いただきました。

続きまして、先ほどの話の中にもございましたが、紫波町のオガールプロジェクトで一番大事なコンテンツは図書館という話をさせていただきましたが、糸魚川市でこの復興のまちづくりの中で一番大事なコンテンツは何とお考えか、お聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。　〔復興推進課長　斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えします。

喫緊の課題でもあろうかということで、先ほどもお話ありましたが、まずはやはり人材が重要なコンテンツではないかなというふうに私は考えております。

もう一つは、オガールの場合にもありましたが、消費を伴わないお客さんという、この視点でのやはりどんなコンテンツがあるのか、このあたりは今、開催しております市民会議とかでも皆さんからいろいろご意見も伺いながら、それから消費を伴うお客様、そういったあたりの視点で、今までのでないような、価値のあるものをまちの中に見つける、もしくはつくるといったことが大事かなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○２番（東野恭行君）

ありがとうございました。これからもそういった綿密な市民の皆さんとお話し合いの機会があろうかと思いますけども、そういったところを引き出せるようなお話し合いになればいいなというふうに望んでおります。

防災とにぎわいの拠点についてでございますが、先般、サウンディングによって企業との調整を図りながらいいものをつくっていこうという、そういった会合もありましたが、引き続き、その民間企業と経済合理性の高いプロジェクトを模索するのか、そういった問いがありましたが、そちらについてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。　〔復興推進課長　斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

ことしの春にいろんな民間事業者さんとさまざまな場でサウンディングという形で事業の可能性を探ってまいりました。基本的には、やはり行政機能が伴わない部分での民間のみでの事業というのは難しいというふうにお伺いしております。今後は、行政機能の部分をどういうふうにしていくかというものも、うちの行政としてしっかりと持ちながら、そういったことが固まった段階でまた、官民の連携を図っていくということで、サウンディング等の実施を計画していきたいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○２番（東野恭行君）

ご答弁いただき、ありがとうございました。

それでは２つ目の項目の産学連携、産学官連携の質問についてでございます。

いま一度、糸魚川市における産学官連携の状況をお伺いします。

市内高校及び産業界等との連携をするということでございましたが、何を媒体に地域経済の活性を目指しているのか、いま一度お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。　〔農林水産課長　池田　隆君登壇〕

○農林水産課長（池田　隆君）

産学官連携による地域経済の活性化には、それを支える人材の確保と育成が最も重要だと考えております。市内の３高校及び産業界との連携体制の中で、当市のさまざまな地域資源を生かしながら、それぞれの学校が特色を伸ばして人材育成を行い、また、高等教育機関の誘致を推進し、産学官連携に取り組むことが必要だと考えております。そこに行政が引き続き支援することで、さらなる地域の人材確保と育成によって若者の定着と地域経済の活性化につなげていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○２番（東野恭行君）

ありがとうございます。今ほど行政が支援していくというふうにあったと思うんですけども、どういったかかわりを持って、どういった支援が考えられますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。　〔農林水産課長　池田　隆君登壇〕

○農林水産課長（池田　隆君）

今まで産学官の連携の代表的な例といたしまして、ご案内のように海洋高校がございます。その支援の内容としましては、海洋高校または連携する企業が、やりたい内容について財政支援なり情報の提供なりということをしてきた結果、現在のような何というか、他に誇れるような取り組みに発展したというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○２番（東野恭行君）

ありがとうございます。

２つ目の項目、高等教育機関の誘致についてでございます。

県内に１２がある私立大学のうち、今春、定員割れしたのは８校に上ることが県のまとめてわかったと８月３０日の新聞報道でございましたが、定員割れをしなかった私立大学４校、並びに定員割れをせず、運営を続けている高等専門学校をどのように分析しているのか、お考えをお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

井川教育次長。　〔教育次長　井川賢一君登壇〕

○教育次長（井川賢一君）

お答えいたします。

その新聞報道につきましては、私も確認をいたしております。定員割れの大きな要因としましては、やはり少子化が一番に挙げられると思います。また、大学進学時における都道府県間の移動の統計というのがあるんですけども、それによりますと、新潟県は流出が超過ということになっております。そういったこともありまして、県内の大学との経営環境、運営状況は総じて厳しいなというふうに感じております。定員割れしなかった大学等につきましては、学生のニーズをしっかり酌んでいたり、あるいは企業、これは就職先ということになると思いますが、そちらとの連携がしっかり進んでいるあらわれでないかなというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○２番（東野恭行君）

今のご答弁の中で、学生のニーズをしっかり酌んでいる、そして連携が進んでいるとのことですが、糸魚川市においてその辺の連携の見込み、学生のニーズの聴取というのは、どんな様子でございましょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

高等教育機関の誘致という形の中で大学、これは以前から言われてることでございまして、もう１０年、２０年もっとさきから言われとるわけですが、やはり少子化という方向性の中では、ただ単に大学ありきではないだろうということで、なかなか取り組めなく参ったわけでありますが、ここへ来て、じゃあ何なんだと、それよりさらに加速しておる少子化の中で高等教育機関の誘致を頭に、視野に入れとるということはどういうことかというと、我々といたしましては、やはり高等学校との連携がうまくいくことによって、さらに生徒たちが大学で学びたいという方向性が少し感じられるようになる。そして何をつくればいいのかというのは、おぼろげながらにも少し見えてくる。将来の夢に向かっていける。そういう形がやはり大事ではないか。それをやはり我々はつくってい

くべきではないか。そういう中でやはり市内には３校あって、その目的に達せられるようなものに、我々は方向性を向いていけばいいのではないかなということで調査研究していきたいということであります。ですから、規模でないかもしれません。規模は大きくはないかもしれないけども、そういった夢に向かって進めていけるようなものに対してしっかり高校と連携しながら進めていくことが大切かと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○２番（東野恭行君）

市長、ご答弁ありがとうございました。高等教育機関の誘致については、しっかりとした計画と裏づけ、人材確保等の準備ができなければ、実施は本当に難しいとそのように考えますが、糸魚川市においては地域性と専門性の高い海洋高校の実績が、先ほどから申し上げておりますとおりその実績が挙げられます。海洋高校の専門性をさらに高め、もう一度お伺いしますが、大学の誘致を目指す方針なのか、それとも高校の専門性を高めて教育につなげていくのか、いま一度お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

やはり一番市民の望むものになっていけばいいわけでありますので、それにはやっぱり大学という形になるんだろうと思いますが、しかし必ずしもその枠に捉われず、やはり生徒たちがまた望む方向をどういう形でいけるのかということが大事になってくるんだろうと思っております。それにはやはり専門の学校であったり、短期大学であったりするのかもしれませんが、しかし、進める中においては、やっぱり一番の理想は大学になるんだろうと思っておりますが、まだそこまで具体的に定まっておりませんが、関連するその機関等そういったところを探りながらまとめていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○２番（東野恭行君）

再度ご答弁ありがとうございました。

３番目の項目で、高校全てを指すのかということで３校全てを指すという答弁を市長からもいただいておりますが、文部科学省のホームページを参照しますと、２０１９年度の概算要求のポイントに、地域と協働による高等学校教育改革推進事業に新規で４億円の予算を見込んでおりますが、当市も名乗りを上げるということで、渡辺議員、保坂議員への答弁もありました。

平成３３年度まで糸魚川においては高校の再編・統合の予定はないとされていますが、糸魚川市も例外なく生徒数が減少しております。生徒にとっても地域にとっても魅力ある高校づくりが急務であると考えますが、今後は市が大いに関与し、高等教育機関の誘致と合わせた市長直結のプロジ

ェクトチームの設置が望まれますが、どうお考えかお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

いま一つの課の中におるわけでございますが、先ほども申し上げましたようにやはり糸魚川高等学校でしか自分を発揮できない生徒、また白嶺高校でしか自分を発揮できない生徒や海洋高校でしか自分を発揮できない生徒等がいると思っております。そのようなことで我々といたしましては、３つの目的をやっぱりしっかりと明確にし、そして魅力をしっかりと位置づけしていくことが大切かと思っております。それがこの糸魚川市の子供たちの、私は一番理想の形だろうと思っておりまして、ぜひそういう方向でいきたいと思っております。そして、それにはしっかりと市も連携しながら海洋高校でやってきた１つの考え方、高校で求めてるものに対して行政が何ができるのか、そういったところをしっかりと整理しながら、これは県立高等学校でございますので、市がなかなか入りにくい部分がございますが、市がやれる部分としてどれが支援できるのかという形の中で、３校の中で連携をとりながら、またゼロ歳から１８歳までという、１８歳というのは高校まで入れておるわけでございますので、その辺の連携をしっかりとっていきながらその支援をしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○２番（東野恭行君）

前向きなご答弁いただきまして、ありがとうございます。私思うんですが、なかなかそういった研究・調査のできるしっかりとした組織、そして、それに目的に向かうしっかりとした課、そういったものがないと本当に実現に向けて前に進まないと思うんですね。そういったところで前向きに考えていくんであれば、その県教委の都合等もございますが、市独自でやはり考えて行動に移していく、そういったチームが必要と思いますが、市長どのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

市単独ではなかなか難しい部分でございましたが、そういったいろんな情報を持っておられる、その知識がある人材が４月から市に入ってまいったわけでありまして、そういった形の中で今、調査研究をしながらどういう方向がいいのか、それが明確になればそういった組織体制をつくりながらいきたいと思っております。その辺がまだまだ明確ではございません。ようやく動き始めてきたときに政府としてもそういう発表をいただいたということは、糸魚川市にとっては追い風と捉えております。そういう中で組織体制もこれから進めていく中においては、それもやはりしっかりと位

置づけしていかなくてはいけないんだろうと思っております。

ただ、ことしはまずは動き始めた年でございますので、その辺がまだまだ固まっておりませんので、研究をしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○２番（東野恭行君）

米田市長ありがとうございました。

続きまして、要望でございますが、今後は地方創生の人口減対策として議員もチェック機能にとどまらず、主体的にかかわりを持って対峙していく必要があると考えています。文部科学省のホームページでコミュニティスクールの数が３，６００校、平成２９年４月１日からでございますが、１，８３２校増の５，４３２校、平成３０年４月１日現在となり、平成２９年３月の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により、学校運営協議会の設置が努力義務化されたこの１年間で、設置校は１．５倍になりました。学校設置者としては、全体の３割の当たる５３２市町村及び１８道府県の教育委員会（学校組合を含む）が導入しており、こちらも前年の３６７市町村及び１１道府県から約１．５倍に増加しております。特に高校もコミュニティスクールは、前年の６５校から３８２校となり、５倍以上となりました。域内全ての高等学校への計画的な設置に向けた取り組みも見られるようになっていますとありました。

魅力ある高校づくりを目指し、ぜひとも糸魚川独自の教育行政を展開していただきたいと考えます。こちらのお考えについてお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原教育長。　〔教育長　田原秀夫君登壇〕

○教育長（田原秀夫君）

お答えいたします。

コミュニティスクールにつきましては、今現在、小中学校で導入を進めているところでありまして、３１年度には、準備段階を含めて市内の小中学校全校が導入して、学校運営協議会体制にしてまいりたいと思っております。今ほどの数字の中にも糸魚川市も入ってるわけですが、これからは、先ほどからお話のありますように高校もそのコミュニティスクールの視野に入れてまいりたいと思っておりますし、文部科学省が今現在、概算要求等で示してるとおり、３１年度からは高校を核にした地域人材の育成事業、それはまさにコミュニティスクール化ということで、市も捉えておりますので、これから３校連携をした形で糸魚川市独自といいますか、一緒のコミュニティスクールができるかどうか、そういうものを研究しながらまた提案をしてまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○２番（東野恭行君）

ありがとうございました。まさに本当にいいタイミングというか、そういったタイミングで３１年度にこういった機会があるということで、チャンスを逃さないで前に進めていただきたい、そのように思っております。

４番目の項目でございますが、夢や希望を育む小中高のキャリア教育の充実についてということで質問させていただいておりますが、再びの質問でございます。

糸魚川市も地域の民間企業と連携により、キャリア教育を進めておりますが、今後のＳｏｃｉｅｔｙ５．０（超スマート社会）を踏まえると、幼少からキャリア教育が必要になってくると考えます。３０年持続可能なまちづくりを踏まえると、さまざまな分野においてＡＩやデータの力を最大限活用し、展開できる人材の育成を地方においても整備していかなければならないと考えております。現在、その超スマート社会を意識した教育や取り組みがあれば教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。　〔教育委員会こども教育課長　石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

お答えします。

現在、小中学校で係活動とか委員会活動、さらには地域の先輩から教えてもらう事業、職場体験、職場見学等々の取り組みは、キャリア教育の目的でもあります望ましい職業観、望ましい勤労観を養う、極めて基本的なんですが重要なことでありますので、今後もしっかりと取り組んでいきたいと思います。

ただ、中学校においては、例えばみずからの生き方を考える場面、それから中高接続といった場面においては、最新の社会情勢等については情報提供していく必要があるかと考えます。

ＡＩについてですが、肝心なのはＡＩを使いこなす力を身につけるということだと思っています。そのためには３つ、１つは正確な読解力、２つ目には科学的・論理的な思考、そして３つ目は新しい価値を見出す好奇心、あるいは感性といったものが重要だと言われていますので、それらを目指した教育を進めなきゃならないと思っています。

新しい新学習指導要領には、主体的で対話的で深い学び、それからプログラミング教育等々入ってまいりますので、それらをしっかりすることによって来るべき未来に子供たちを送り出してやらなければいけないかなというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○２番（東野恭行君）

ありがとうございました。ちょっと一度では理解できないような、ちょっと難しいお話なんですけども、新しい感性を子供に磨いていただきたいということは、そういった教育を教えられる人材も必要になってくるかと思います。そういった人材の確保も含め、今後、糸魚川市として取り組んでいかなければいけないなと考えておりますが、それについてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺企画定住課長。　〔企画定住課長　渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

きのうの渡辺議員のご質問にもお答えしたと思うんですけども、確かにやっぱり、人材育成というのは大事だというふうに思っております。地方創生とかでもいろんな今は教育のほうの分野になっておりますけども、医療分野、介護分野、それから産業分野、それとあと地域を担う人材と。そういった人材の育成というのは非常に大事だというふうに思います。これをやっぱり短期的に一朝一夕でできるもんじゃないというふうに思いますので、いろんな角度を使って、いろんな取り組みをやって、トライ・アンド・エラーといいますかね、試行錯誤もありますけども、そういった取り組みの中で、チャレンジしていくのが一番大事だし、また学ぶ側もやっぱり関心を持ってもらうというふうに、ところも大事です。また関心を引くように我々行政もうまく誘導していく、そういった取り組みで人材育成というのは進めていくのかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。　〔教育委員会こども教育課長　石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

まず、プログラミング教育についてなんですが、非常にこれについては今現在、教職員も勉強しているとこなんですが、まず、メンターといいますか、指導者養成という観点で、昨年度から上越教育大とちょっと連携しまして、そこで学ばせていただいているところです。今年度は３名の市内の小中学校の先生が指導者たるべく今そこで学ばせてもらってるというとこであります。また秋口には、全体で市の研修等も行っていきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○２番（東野恭行君）

ありがとうございます。そういった技術、そういったことが学べる環境って、すごく糸魚川に帰ってきて子供を産んで、そこで勉強させようという帰ってくる動機につながってくると思うんですね。そういったところで、そういった教育のできる環境を磨いてくというのも本当に地方創生にとって大事なことと思いますので進めていただきたい、このように要望したいと思います。

最後になりますが、１つ要望させていただきます。

未知の可能性を切り開くのは、やると決めた人の行動であると考えます。駅北のまちづくりにおいても大学の誘致の可能性についても主体性を持って決断と行動できる人材、プレイヤーがいるからこそ前に進もうとするのであります。米田市長におかれましては、市町合併からたび重なる判断と決断をしてこられたと思います。

先般の敬老会の中で、参加者の代表の方から市民に遠慮することなく、大胆な政策を打ってほしいとのお話がありました。人口減少問題と地域経済の活性、それにまつわる人材の育成は、喫緊の課題であると認識しております。糸魚川市民の明るい笑顔のために今後も引き続き、明るい未来の

ために決断を繰り返していただき、議会も大いに巻き込んでいただきたいと強く要望いたします。最後に米田市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

非常に心強い応援の言葉をいただいたと捉えております。非常に我々はやはり計画、そしてそれを実行することが大事だろうと思っております。幾ら計画しても実行しなかったら何も意味もないわけであります。今回は、駅北大火においては、５年という１つの計画期間を定め、今進めておるわけでございます。その中で我々が目指したところをあまなくやはり動かしていけるような形に持っていきたいと思いますので、引き続き皆様方のお力をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○２番（東野恭行君）

市長、ご答弁ありがとうございました。

以上で、私の一般質問を終わります。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で、東野議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

関連質問なしと認めます。

次に、古川　昇議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。　〔１６番　古川　昇君登壇〕

○１６番（古川　昇君）

市民ネット２１、古川　昇であります。

発言通告書に基づきまして１回目の質問を行います。

１、介護保険事業についてであります。

介護保険制度のサービスの総費用は、高齢化が進み、国の２０１７年度当初予算では１０兆８，０００億円に膨らんでおります。介護制度が始まった２０００年度の３倍になり、国は費用の伸びを抑制するため、重度化防止と自立支援に力を入れております。また、要介護者増加に伴い介護人材不足が明らかになり、団塊世代が後期高齢者になる２０２５年には県内でも３，５００人が不足と予想されております。財源確保対策とサービスの整備や担い手不足への対応が求められてい